社員旅行（第二班　38 名）　　レポート；西岡南海男

5 月 28 日(木)～39 日（土）で二泊三日の北海道道南の旅行であった。
第一日目は函館市場、トラピスチヌ女子修道院、五稜郭、懇親会、函館山からの夜景、湯ノ川温泉がメニューであった。バスは函館バス（ＨＢＫ）であった。
①鈴木儀子（70 歳）さんのガイドをうけた。高齢ですが歳を感じさせない立派な説明であった。プロとはいえ数字、人の名前がよどみ無くでてくることに多少驚いた。多分、前の日に予習をきっちりしたのだろうと思われる。また、落ち着いた所作できちんと礼節ができ、お客を飽きさせない努力をする人と思った。一方、バス会社も昔ほど景気が良くないことと、ガイド志望者が少ないのだろうと思った。
②函館市場で昼食（海鮮丼)。高度経済成長期に活躍した青函連絡船「摩周丸」が港に係留展示されていた。宇高連絡船とラップし「お疲れさん」と思った。
③トラピスチヌ女子修道院では修道女の暮らしぶり、規律をガイドさんから聞き少しカルチャーショックを感じた。60 名が自給自足で暮らしており、外出するのは選挙の投票の時、病気の時だけ、入院 8 年で俗世界か続けるかの選択があり、その後の退院にあたってはローマ法王の許可が必要となるそうだ。
④懇親会；４名に新規社員を含む３８名で親睦を深める会となった。
⑤函館山からの夜景は初めてであったが、大変美しい夜景でした。
第二日目は函館朝市、大沼公園、昭和新山、札幌のコースでした。
①大沼公園からの駒ヶ岳の眺めはいかにも北海道であり、壮観であった。
②昭和新山は前回（平成元年）も思ったが、地球のダイナミックさが感じられた。
③札幌は人口１９２万人の大都市であり、いつ来ても美しく、区画された町である。
第三日目は小樽である。
①小樽湊は日本海に面しており、冬の厳しい波浪、風雨に耐え北海道の発展を支えた。
地形的に外海に面した港であり、堅牢につくらなければ行けない港だと思った。
広井勇の偉業が忍ばれる。なお、資料館は休館日であったが、第二班は１０名あまりが行った（一班は５名)、ガイドさんが二班は多分会社を担う人が多いンでしょうと言うので、若手中心で記念写真を撮った。(皆、まんざらでもない顔つきでした)
②小樽運河も歩いた。景観整備がされており、気持ちが良かった。

＊社員旅行は会社を離れて、笑いながら一緒に時をすごすことができ、開放感があり、相互の親睦を深め、良いチームワークが形成され。人間形成や仕事に繋がるイベントであると思う。最後に山本崇幹事（と谷脇会長）の段取りに感謝します。

北海道で感じたこと

総務課　山本　幸栄

台湾、東京、と続いて３度目の研修旅行先の北海道は私の人生で２度目の北の大地でした。１度目が１５年ほど前なので記憶も断片的なものになっていますがかなり街並みも変わっているのではないかと今回の旅行を楽しみにしていました。

前回と今回の旅行で同じだなと思ったのはその観光客の多さです。平日の午前８：３０だというのに函館の港は観光客の乗ったバスで賑わっていました。最近の傾向はやはりグローバル化という事なのか中国や台湾からの観光客が多いとか・・・。それに加えて修学旅行のシーズンでもあり今回観光した３都市はどことも大盛況でした。

函館の朝市

札幌大通公園では５月２０日～３１日までライラックまつりという催しが行われていました。期間中は平日でも午前１０：００または１１：００から「ワインガーデン２０１５」がオープンし、道内あるいは海外のワインが多数紹介されていました。１杯５００円～８００円で気軽にワインを楽しむことができるようになっています。もちろん軽食も豊富で居酒屋メニューからイタリアン、フレンチまで屋外で楽しめるようになっています。私達がちょうど通りがっかった２９日は金曜日の夕方ということもあり本当に賑わっていました。５月の爽やかな風を感じながらワインを片手にほろ良い気分の仕事帰りの人達と観光客が一緒になって楽しんでいます。

ワインは紙コップではなくちゃんとしたグラスを５００円でレンタルし、帰り際にグラスを返却すると５００円は返ってくるというしくみになっていました。

このシステムはちょっとおもしろいな、と思いました。こうすれば皆、グラスを大事にするし、ちゃんと返却もするし、割られたとしても損はしないわけです。

ワインガーデン２０１５

３日目の小樽は運河とガラスの街ということで女性心をくすぐる街並みやお土産屋さんがこれまた観光客でごった返していました。今回の旅行で感じたことは函館の夜景が１５年前よりも明るく見えたのはお店が増えて街が活気づいているからなのか LED のせいなのかはわかりませんがともかく北海道はとても元気だった、ということです。

小樽の街並みと観光バスの列

高知でも現在「高知家」というイベントを通して県全体で観光客や移住者を呼び込もうと努力しています。しかし、よさこい祭りも現在ではよさこいソーラン祭りにおかぶを奪われてしまった形になっているように高知はなにか後手になっているように思います。小樽運河の倉庫群の中で電気製品を売っているのには少し驚きましたが海外の観光客がそれを求めそれが売れているのなら、「あり」なのかな？と思いました。

北海道のような大地も国際空港もない高知ですが、勝る、なにかを本気で考えて全国に発信し、たくさんの人に来ていただけるようにしていくには？と改めて考えさせられた旅でした。

北の都で二泊三日　くいだおれの旅レポート

総務課　髙橋　祐也

1. はじめに

今年の社員旅行として、5 月 28 日～30 日の二泊三日、北海道の旅に行ってきました。

一日目は函館、二日目は札幌、三日目は小樽の街を観光し、北海道の新鮮な海鮮料理や様々な観光地を巡ることが出来、この三日間の旅はとても有意義なものでした。

2. 函館の街

飛行機に二回乗り、降り立った場所は函館空港。北海道でのはじめての食事は、新鮮な海鮮丼をいただきました。食後は、五稜郭公園(箱館戦争の舞台)を観光した後、五稜郭タワーで、五稜郭のきれいな五角形を確認しましたが、あまりにも形がくっきりと分かる為、感動しました。

その後、トラピスチヌ修道院(日本初の女子修道院)を観光し、修道院の歴史についても学びました。湯の川温泉渚亭での早めの宴会では、次から次へと出てくる料理で満腹になりました。また、社員同士の親睦をはかることができ、楽しい宴会となりました。

その夜は、驚くほど綺麗で驚くほど寒い函館山 100 万ドルの夜景を鑑賞後、湯の川温泉にて冷えた身体を温めるとともに、日頃の疲れをリフレッシュしました。函館山は、平日の夜にもかかわらず、たくさんの観光客でいっぱいでした。

五稜郭公園

トラピスチヌ修道院

函館山 100 万ドルの夜景

3. 札幌の街

二日目の朝は、函館朝市に向かい新鮮な海鮮を購入しました。函館朝市の商店街は、勢いに負けて買ってしまいそうなほど、活気に溢れており、素材も新鮮なものばかりでした。その後、函館の街を後にし、次に目指すは札幌の街。そして、札幌に向かう道中、様々な観光地を巡りました。中でも印象に残ったのは、日本の地質百選にも選ばれた昭和新山を直に観ることができたことです。夕方からの自由行動では、ビールとジンギスカンでお腹を満たした後、札幌市内の街を楽しみました。

函館朝市

大沼国定公園

昭和新山

4. 小樽の街

最終日は小樽市内で食事や買い物を楽しみました。 小樽での食事はビールを片手に新鮮な海鮮丼、食後はルタオでデザートという贅沢な昼食でした。小樽の街には、たくさんの見どころやスイーツがあり素晴らしい街でした。その後、新千歳空港でお土産屋さんを巡り、たくさんのお土産を持って飛行機に乗り込み、高知に帰ってきました。

小樽散策

新千歳空港にて

飛行機

5. おわりに

今回の社員旅行では、はじめて北海道の地に足を踏み入れ、美味しい食事や様々な観光地を観ることができ、すごく楽しい思い出となりました。

北海道で食いだおれ！！
憧れの北の都　函館・小樽・札幌　２泊３日の旅　感想

営業課　小野　裕正

旅行中、天気に恵まれ心地よい社員旅行であったと、一番に感じています。

印象に残っているものは、北海道の気候の良さと中国人観光客の多さで、特に昭和新山と小樽では殆どが中国人観光客だった様に思います。

残念だったことは、小樽港の「おたるみなと資料館」が土曜日のため休館であった事で、今年度の入社式での古川勝三先生による廣井勇博士の特別講演を拝聴し、営業の私でも興味を抱いていましたので、資料館に入館できなかったことが唯一の心残りでした。

しかし、良かったと思う点が２点もありました。
第二班参加者全員が、予定時間を守り日程が遅れること無く旅行が出来たこと。
第二班の団長である山本崇顕さんの、函館での宴会時の挨拶です。
挨拶の中で、「昨年度、自分も頑張ったが社員のみんなが頑張ったことで、ここに来られた。今年度も頑張って、また旅行へ行きましょう！」と言うような事を述べたことです。
一致団結を感じられ、すばらしい挨拶だと思いました。

今回、様々な段取りでご苦労された親睦会幹事の皆さま、本当にお疲れ様でした。
また今年度も頑張って、是非とも社員旅行へ行きたいと思います。

社員旅行レポート

第一コンサルタンツ　営業部営業課　小松　俊則

平成２７年５月２８日から平成２７年５月３０日までの３日間で社員研修旅行で、第二班として北海道へ行かせていただいた。

まず初日は、函館空港に着いたあと昼食を函館朝市場にて海鮮丼を食した。

それから、トラピスチヌ修道院へ観光に訪れた。ここはガイドさんの説明を聞けば聞くほど驚いた。１８歳以上３５歳未満であれば２年間の試用期間を得て自らの意思で出るか残るかを決めるそうである。現在６０名ほど（最高齢はたしか９０歳ぐらい）の修道女が暮らしているそうであるが、普段は集団での自給自足を基本とした生活を行い、親族が危篤の場合か選挙の時以外は一歩も敷地外部へ出るのは許されないそうである。施設に残るという決断は、その人の人生において非常にすごい決断であり僕は想像もしてなかった説明ばかりであったので、日本国内に正式な宗教指導の生活に人生を捧げる施設が存在することに少々驚いた。

トラピスチヌ修道院の後は、五稜郭公園へ観光に行った。ここはプライベートでも訪れたことが以前もあったため興味をもっての観光とはならなかった。ただ、展望場所で食べた夕張メロンのソフトクリームは本当においしかった。

その後、湯の川プリンスホテル渚亭へ到着後、懐石料理であったが宴会が催されその後、函館の夜景を見に行ったが、修学旅行の一団と中国人の一団と一緒になりとてもゆっくり見られる状況ではなかった。

二日目は、函館朝市からスタートした。蟹がたたき売りの状態であった為、お土産として購入し送ることにした。大沼国定公園では、あまり時間がなかったため地ビールを堪能して次へ移動となり昭和新山観光施設へ行ったが、いきなり添乗員から中国人観光客が白い恋人を買い占めており、さらに中国人観光客のバス８０台が順次訪れるとのことでとても買い物をする気持ちにならなくなった。

昼食は、石狩鍋を食した。意外においしかった。そこでは、店長さんから１班は生ビール

を７９杯飲んだとのことだったので、負けず嫌いの集団である第二班は対抗して８５杯を飲みきった。（社長すみません。）

夕方には札幌に到着してホテルに入り７人で夕食に出掛けた。私はジンギスカンを希望したが多数決により海鮮焼きとなった。残念であったが、北海道の食材を焼いて食するのも非常においしかった。

三日目の最終日は小樽に向かった。皆が家族や友人、留守番の同僚へのお土産購入で必死であった。私と一緒に行動した同僚もお父さんの顔になり子供達へのお土産購入の必死さが伝わった。

次回は、国内でもまだ行ったことのない場所への旅行を期待したい。

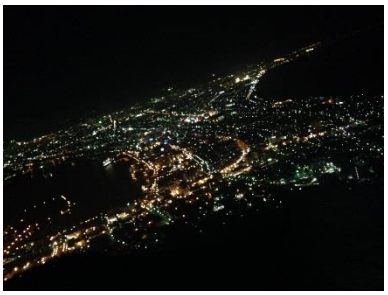
以上

【北海道社員旅行レポート】

営業部営業課　佐藤 香奈子

5 月 28 日(木)　<函館>

高知龍馬空港から羽田空港を経由し、12 時前に函館空港に到着。
函館は 20 歳の時に訪れて以来 2 度目。
バスで移動し、函館駅のすぐ隣にある函館朝市内にあるお店で海鮮丼の昼食。
ウニ・エビ・イクラ・ホタテ・イカ。なかなかのボリュームで美味しかった。
昼食の後は五稜郭へ！公園の周りはツツジが溢れるほど咲いていた。五稜郭タワーに登り、上から眺める…以前来たときは 3 月、まだまだ雪の時期だったので一面白い景色だったけれど今回は緑の五稜郭。時間が足りず公園内を散策できなかったのが残念。
そして日本初の女子修道院、トラピスチヌ修道院へ。天使ミカエル、テレジアなどの聖像や資料館があり、バスガイドの方が説明しながら園内を案内してくれた。
夕食後はあの有名な函館の夜景を見に函館山へ。修学旅行生で展望台はいっぱいだった。



5 月 29 日(金)　<函館～札幌>

2 日目の始まりは函館朝市へ。ふらっと試食したイクラがおいしすぎてそのまま購入。
バスで札幌に向かう途中に寄ったのは、大沼国定公園と昭和新山。昭和新山では微かに山から蒸気が出ていて少し感動した。
昼食は初めて食べた石狩鍋。味噌ベースでとても美味しかった。
まず、札幌に着いてしたこは、「さっぽろスイーツ 2015　コンペティショングランプリ」のスイーツを食べに札幌の地下街へ。お米を使った苺のケーキ！お米のつぶつぶ感が新鮮で美味しかった！そして、大通公園、時計台、札幌駅、急道庁を歩いて回る。大通公園は緑がいっぱいで、芝生の上でくつろぐ人がたくさん。

夕食は大通公園で行われていたワインガーデンというイベントへ。オクトーバーフェストのワインバージョン？のようなイベントで、露天がたくさん出ていた。　行ったのがラストオーダーぎりぎりだったので急いで注文。ジャガイモにバターとイカの塩辛をのせたやつがとても美味しかった。北海道では鶏の唐揚げをザンギというらしい…

5 月 30 日(土)　<小樽>

最終日は小樽へ。

オルゴール館から順番に回っていくことに。お目当てのスイーツ店ではお土産をたくさん購入。試食して悩んでいると時間があっという間に過ぎてしまった。

そして夕方には新千歳空港に到着。少し時間があったので、最後に「けやき」というラーメン屋さんで味噌ラーメンを食べた。

予定時刻より少し遅れて羽田空港に到着、乗り換えの入り口が混み合っていてバタバタで高知行きの飛行機に搭乗。高知へ帰ると雨だった。

3 日間、天気に恵まれとても暖かかった。また北海道に行きたい！と思えた旅になった。

北海道研修報告書　第 2 班（2015.5.28～2015.5.30）

設計一部　道路交通課　西村　紘寛

1. はじめに

社員旅行は今年で三年連続となり，約 80 名の社員が二班に分かれ参加した。私は第 2 班として 5 月 28 日より 2 泊 3 日の北海道研修に参加した。

2. スケジュール

5/28　函館観光(五稜郭，トラピスチヌ修道院，函館山からの夜景観賞)

5/29　函館-札幌間の観光(函館朝市，大沼国定公園，昭和新山，札幌市内車窓観光)

5/30　小樽観光(小樽市自由行動)

3. 研修内容報告

【5/28】

第 1 班の情報によると肌寒いので上着が必要と聞いていたが，函館は晴天で少し動けば汗ばむくらいの天候であった。到着後すぐに函館朝市に寄り，昼食に海鮮丼を頂いた。北の海産物はおいしいと言われているが，想像以上でありエビ・イクラ・ウニと贅沢に盛りつけられた丼はとてもおいしく，昼間からビールが進んだ。

昼食後は五稜郭の見学へと移った。五稜郭の傍らには五稜郭タワーが建っており，函館市内を一望できる観光スポットとなっている。晴天であったため，函館平野全体を見渡すことができ，爽快感抜群であった。

写真-1　昼食の海鮮丼

写真-2　五稜郭タワーから見下ろす五稜郭

夕食は 1 日目の宿泊先である湯の川温泉プリンスホテル内にて夕食をとり、その後函館山に向かい，夜景観賞を行った。昼の五稜郭タワーから一望した函館市とは異なり，幻想的な世界観を感じることができた。

写真-3　ホテルでの夕食を堪能

写真-4　函館山からの夜景

【5/29】

ホテルをチェックアウト後，函館朝市へ向かった。昨日の昼食時とは違い多くの観光客が押し寄せており，熱気が満ちていた。お土産の品として蟹やエビが売り出されていたが，観光地価格のせいか，かなり高価であると感じた。その後は札幌市へバスで向かい，途中大沼国定公園，昭和新山，洞爺湖付近での昼食を楽しんだ。昼食をとった食堂では，第 1 班の生ビール総注文数が 78 杯であることを聞かされると記録越えを目指し，こぞってビールの注文を行った結果，見事 80 杯越えを達成した。

ホテルに到着後，第 1 班メンバー達と夜の街へふけていった・・・

写真-5　昼食時の alc 中毒者達

写真-6　札幌の街角にて

【5/30】

最終日は寝不足の中，チェックアウトを済ませバスで小樽へと向かった。

小樽では予てチェックしていた，小樽ビールが堪能できる『小樽倉庫 No.1』へと向かった。ここではビールの醸造過程や仕込み釜，発酵タンクなどを見学でき，さらに一番の目当てであった 1ℓビールを頂き楽しい時間を過ごすことができた。

写真-7　黄金に輝くビール仕込み釜

写真-8　1ℓビールを手に取る片山くん

4. おわりに

今回の旅行で北海道は 4 回目となったため，昔の記憶を辿りながら北海道の変わらぬ姿，雄大さを再確認することができた。また，普段コミュニケーションをとる機会が少ない社員，特に新入社員達と親睦を深めることができ，有意義な 3 日間を過ごすことができた。

北海道研修報告書（2015.5.28～5.30）

設計一部道路交通課　中平　隆文

1.　1 日目の日程

・7 時 35 分発の飛行機に乗り、羽田経由で札幌へ出発
・函館の朝市にて昼食
・五稜郭で記念写真と見学
・トラピスト修道院で見学
・ホテル到着のち宴会
・100 万ドルの夜景観賞
　　1 日目終了

羽田空港

1 日目の昼食

2.　1 日目を終えて

　1 日目は、朝早く集合だったので移動の際寝てしまうことがあったが目的地に着くと綺麗な景色やおいしい食べ物で目が覚めた。

　中でも印象に残っているのはトラピスト修道院と夜景観賞である。トラピスト修道院は、修道女以外立ち入り禁止の場所などがありもっと奥の方も見ていたいと思った。

　夜景観賞は着いたのが 21 時くらいで遅い時間になったが、たくさんの人が夜景を見にきていた。100 万ドルの夜景は、今まで自分が見た夜景の中で、1 番綺麗な夜景だと思う。

トラピスト修道院

100 万ドルの夜景

1.　2 日目の日程

・函館の朝市にて買い物
・大沼国定公園の見学
・昭和新山にて記念写真・昼食
・札幌のホテルへ
・夜は自由行動　　2 日目の夕食→

函館の朝市にて買い物の様子

昭和新山

4.　2 日目を終えて

　この日は、大沼国定公園と昭和新山へ行ったどちらとも街中から少し離れた場所にあったが、観光客の方や近所の幼稚園児などでたくさんの人がいた。夜の自由行動では、地元の方に店を教えてもらいずっと食べてみたいと思っていたジンギスカンも食べることができた。

1.　3 日目の日程

・小樽市内観光（各自）
・新千歳空港から羽田経由で高知へ

2.　3 日目を終えて

　最終日は、小樽市内で自由行動だったので、オルゴール館や食べ物屋を回った。オルゴール館はたくさんのオルゴールがあり、またそれを聴くことができ、自分の知っている曲も多くあったので楽しい時間を過ごすことができた。
　お土産などもたくさん買うことができ、充実した時間が過ごせた。

オルゴール館にあったパイプオルガン

新千歳空港にて

3 日目の昼食

3.　おわりに

今回の研修で初めて北海道に行くことができたが、高知と少し似ており自然が多くあり空気がきれいだと感じたが日本の最北端ということもあり、朝晩は寒かった。また、この研修を通して普段なかなか話す機会が少ない他の課の多くの方と話すことができ、充実した 3 日間を過ごすことができた。

社員旅行レポート

橋梁構造課　山岡幸弘

１．はじめに

２班は，1 班から 1 週間遅れの 5 月 28 日～5 月 30 日のスケジュールで「トラピスチヌ修道院」,「五稜郭公園」,「函館山 100 万ドルの夜景」,「函館市場」,「大沼国定公園」,「昭和新山」,「小樽」を見学した。1 班の方はまだ寒さが残っていたようだが，2 班は３日とも天候に恵まれ，気温も高知以上でとても気分良く過ごすことができた。印象深かった「トラピスチヌ修道院」「函館山 100 万ドルの夜景」,「函館市場」,「小樽」についてレポートする。

２．「トラピスチヌ修道院」

トラピスチヌ修道院は 1898 年（明治 31 年）にフランスから派遣された 8 名の修道女によって創立された日本最初の女子観想修道院である。その生活スタイルは，毎朝３時半に起床し，祈り・読書・ミサ・労働・食事をすべて共同で行い，夜は７時 45 分に就床，また，一度入会すると脱会することは殆どできず，選挙や病気治療以外に修道院を出ることはない。「世を見つめ直すため，神の眼差しを学ぶためであろう」。私にはとても真似できない。

３．「函館山 100 万ドルの夜景」

夜景観賞をするのは，約 20 年前のグリフィス天文台から見たロサンゼルスの夜景以来である。函館山 100 万ドルの夜景は，大都市のネオン夜景とは異なり，情緒があって良いものであった。次回は長崎の夜景も見たいものである。

４．「函館市場」

函館市場は，お土産を買うだけで時間がなくなり，良い食材を安く買えたことだけが思い出である。

５．「小樽」

小樽は，情緒ある町並みを満喫できた。また，日本銀行の金庫内に入ることができたのは一生の思い出となった。

６．おわりに

今回の旅行は，スケジュールに追われ，ゆっくりできなかったので，次回は是非滞在型の社員旅行にしていただきたい。

北海道旅行

橋梁構造課　　水田勝也

１．まえがき

今年の社員旅行は、北海道 2 泊 3 日。函館～札幌～小樽のコースは、20 年前と同じ工程だ。観光地の位置や見所には基礎情報が多かったこともあり、広井勇の防波堤しか調べていない。町の変化に着目しながら、また構造物を観察しながら、観光を楽しむことにした。

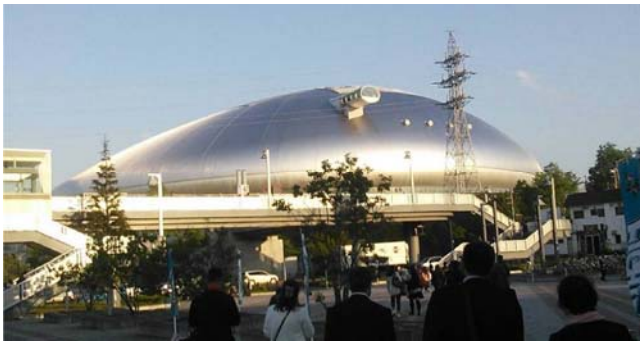
２．函館の町

函館に入って最初の場所は函館朝市。朝市より前面に広がる鋼橋が目にとまる。ともえ大橋である。全長 1924 メートルの鋼床版連続箱桁の高架道路である。竣工後 15 年と新しいこともあり、塩害劣化が進行していない。橋脚には違和感のある PC ケーブルの落橋防止装置が設置されていたがこちらも損傷が軽微。駐車場かららせん状の歩道を登ると、海側には広めの歩行者用通路が設置されていた。函館港が一望でき、青函連絡船最後の日まで運航していた摩周丸も確認できる。潮風が心地よく感じられ、夜には良いスポットとなるに違いない。

五角形をした近代城郭である五稜郭に堀を渡るための 2 つの木橋があった。一の橋と二の橋である。北側には裏門橋。堀に向かって釣りをしている様子に気をとられ、移動だけに終わる。一周回ると 20 分弱。2km のウォーキング感覚でよい運動になった。

３．札幌の町

札幌に入ると自由行動。当初から予定の札幌ドームに向かう。中日 vs 日本ハム戦。札幌の地下鉄は、乗り継ぎが非常に不便であり、観戦にも遅れる。しかし、当日はメンズデー。なんと観戦料金は半額とのこと。レディースデーはあってもメンズデーとは。内野指定席から、ドーム内を見ると美しい人工芝が張られている。これだけでも十分に価値はあった。試合時間は、非常に短く、接戦の上、中日の勝利に終わる。札幌ドームは、駅まで遠く、また出口の歩道橋が交通を阻害しているため、改善の余地があると感じた。



４．小樽の町

小樽に入ると自由行動。防波堤組はバス待機の後資料館に向かう。南防波堤から北防波堤までは 2km ほどあり、北防波堤はほとんど確認できない。近づくと斜塊ブロックは確認できた。堤体を構築するための工法、当時最新の技術であった「スローピングブロックシステム（方塊傾斜積工法）」である。広井勇は防波堤に当たる波の強さを測定し、防波堤に使うコンクリートの性能を試験し、日本初のコンクリート製の外洋防波堤を建設した。100 年の荒波に耐えて今も当時のまま使われていることに偉大さが伝わってくる。機会があれば、資料館の見学をしてみたいものだ。堤防を歩きながら、釣りなどしてみたい気分になる。

５．おわりに

函館駅や函館空港の改築、小樽の町並みなど 20 年前とは、随分様変わりをしていた。高知より明らかに時間の流れが速い。来年も社員旅行を期待しながら仕事に戻る。

社員旅行レポート（北海道）

設計二部　橋梁構造課　主任　兵頭学

平成27年度の第一コンサルタンツの社員旅行は北海道旅行である。私にとってはじめての北海道だ。

あわただしく過ぎた２泊 ３ 日の旅はこの紙面では書ききれないため、特に印象に残った小樽について書きたいと思う。

小樽は、昔の街並みを保存した町で大学で建築を勉強した私にとって、とても興味深かった。中でも、今では金融資料館として使われている旧日本銀行小樽支店は、東京駅の設計者である辰野金吾によるものだとのことで、とても美しい建築に感動した。すべらしい建物は入った瞬間に人を感動させる力がある。

資料館としても日本銀行の本物の金庫の扉が設置されていたり、一億円の重みを体感できるコーナー、お札に込められた様々な先端技術など、とても面白い場所なので今回行けなかった方も、次は訪れてみてほしい。

小樽では、そのほかにも小樽市立美術館で展示を見たり、歴史的な街並みを見つつ、お土産を買ったりと昼食をとる時間も惜しいくらい楽しいひと時だった。またぜひ訪れたいと思う。

５月の北海道は例年よりもあたたかく、夏入りを思わせるものであった。次に北海道を訪れるときには、冬の北海道も味わってみたいものである。

北海道へまた社員旅行へ来られるように頑張りたい。

2015 年 5 月 25 日　AM7:30　高知空港→函館空港

2015 年 5 月 25 日　PM0:50　市場で昼食

函館市内観光（五稜郭、トラピスチヌ修道院）

2015 年 5 月 25 日　PM5:30　夕食→函館夜景

函館市内ホテル泊

2015 年 5 月 26 日　小樽→札幌

道中観光（小樽朝市、大沼国定公園、昭和新山）

2015 年 5 月 26 日 PM1:30　石狩鍋

札幌市内泊（ススキノ）

2015 年 5 月 27 日 AM10:00　小樽観光

2015 年 5 月 27 日　PM2:30　千歳空港→高知空港

平成２７年度 社員旅行レポート

平成 27 年 6 月 1 日
設計二部橋梁構造課
石川　幸作

1　日時・場所

平成 27 年 5 月 28 日～30 日　　北海道

2　見学内容

2.1　5 月 28 日(初日)

主な見学場所：五稜郭公園、トラピスチヌ修道院

五稜郭タワーから見た五稜郭公園

トラピスチヌ修道院内の様子

(見学のまとめ)

五稜郭公園、トラピスチヌ修道院といった趣きのある美しい人工建造物を見学し、実用性のみでなく、デザイン・色彩のもつ力、重要性を勉強することができた。

2.2　5 月 29 日(二日目)

主な見学場所：大沼国定公園、昭和新山

大沼国定公園の様子

昭和新山の様子

(見学のまとめ)

大沼国定公園では樹木や湖沼による景色の美しさを堪能することができた。火山活動により形成された昭和新山においては、自然活動のエネルギーの巨大さを感じ取ることができた。

2.3　5 月 30 日(三日目)

主な見学場所：小樽市内、小樽港

小樽港の様子
(写真手前：伊藤長右衛門の携わった南防波堤
写真奥：広井勇の携わった北防波堤)

斜路式ケーソン制作ヤードの様子
(伊藤長右衛門 考案)

(見学のまとめ)

以前に広井勇の設計による小樽港、伊藤長右衛門考案による斜路式ケーソン制作ヤードについての勉強はしていたが、実際に目の当たりにすることで先人たちの偉業を肌で感じ取ることができ、非常に良い経験になったと思う。

3　総括

今回の旅行では人工物や自然物の景色を見学する機会が多く、美的感覚を養う上での良い勉強になったと思う。また、小樽港の見学については、土木史において大きな功績を残している建造物を実際に見ることができ、たいへん貴重な体験となった。

気持ちをリフレッシュすることができただけでなく、今後の業務においても、非常にためになる旅行になったと思う。

社員旅行レポート

設計二部　橋梁構造課　小島 心平

本年度も社員旅行に参加させて頂き、有り難うございました。
今年は北海道へ行くとのことで、気温差から体調不良に陥ることがないか心配でしたが、なんとか持ちこたえられ、充実した旅行となりました。

一日目は、函館にて五稜郭公園、トラピスチヌ修道院、函館山からの夜景を観光しました。

日中、日差しは高知県とあまり変わらないように感じましたが、どこへ行っても風が冷たく、特にこの日に回った観光名所ではあたりで花々が咲いており、香りが一面に広がった中での観光となり、清々しい気分で過ごすことができました。

函館といえば夜景、ということで夜の宴会の後の夜景観賞では、時運にも恵まれ、なかなかのコンディションで鑑賞できたのではないかと思います。明るさだけではない均整のとれた明かりが百万ドルたる所以かと感じました。

二日目は、日程の大半が移動で、途中に大沼国定公園、昭和新山を観光しました。

この日も前日と同じく気持ちよく風が吹き、美しい自然を感じることができました。

大沼国定公園では、ボートに乗船していればかとても美しく塗装された橋梁とアーチ形式の橋梁が見られたようですが、タイミングが悪く乗り遅れてしまい、後悔しているところです。

最終日には小樽市の散策を行いました。

公益で栄えた都市ならではの建造物や名産品、文化を知ることができました。

全体的に石造りの建物が多く、小樽港が外国貿易港として栄えたという 20 世紀初頭から現在まで、建て替えや復元などの工事がないとすれば、石材という建材がいかに優れていたかと思える所でした。

また、ロイスやルタオといった全国的にも有名なメーカーの本店ということで、おみやげを買いに行きましたが、どれも好評で、来て良かったと思える所でした。

今回の旅では、去年度のように橋梁見学ツアーに参加したり、流量計算の勉強会で北澤さんの仰っていた 1：10 勾配の堤防を見るといったことで業務に積極的に役立てて行くということはできませんでしたが、その土地ならではの建物を見ることで良い刺激になったと思います。

北海道旅行記

設計二部　橋梁構造課　　片山直道

1.　はじめに

日本最大の面積を誇る北海道は、水産業だけでなく、四季折々の景色に魅せられ多くの観光客が足を運んでいる。

札幌の気候は、一部を除いて亜寒帯気候であり、5 月の平均最高気温は 17.3℃である。しかし、今回の旅行中なんと 29.5℃を観測した。

入社 2 ヶ月の私は、先輩方と親睦を深めることができることへ、期待半分、不安半分といったところで 2 泊 3 日の旅に出た。

2.　旅程

今回の旅は、共に 4 月から入社した 4 人の新入社員を含む総勢 38 名で旅に出た。

今回の旅程は以下のとおりである。

5 月 28 日（木）函館着、市内観光
5 月 29 日（金）函館・札幌観光
5 月 30 日（土）小樽観光、帰路

3.　1 日目

朝早くから高知空港に集まりさっそく飛行機に乗り込んだ。函館に到着し私はある一人の女性にくぎ付けになった。彼女の名は鈴木さん。我々のバスガイドであるが、なんと 70 歳の現役だというのだ。鈴木さんには 3 日間たくさんの情報、笑い、感動を与えていただいた。

そんなベテランガイドさんに圧巻されているうちに、我々は昼食会場へと到着した。そこで函館ならではの海鮮丼を食らい、北海道限定サッポロクラシックビールをおいしくいただいた。

昼食会場を後にした私たちは五稜郭へと向かった。展望タワーに上りきれいな星の形のお堀を望んだ。上から見るとお堀に 3 本の橋が架かっている。このうち 2 本は、1980 年代に築造当時の姿のまま復元したものだそうだ。復元した木橋は、当時を思い浮かべることができるほど趣を出していた。

私たちは五稜郭を後にし、トラピスチヌ修道院に立ち寄りホテルへと向かった。大宴会の後、私たちは函館山へ 100 万ドルの夜景を鑑賞しにバスへと乗り込んだ。函館山の夜景は、それはそれは美しく心が浄化されていった。こうして怒濤の 1 日を終え、私は朝抱いていた不安をきれいさっぱり忘れて眠りについた。

4.　2 日目

起床し朝食会場へと向かった私は、感動に包まれた。朝食からイクラの食べ放題があったからだ。イクラ好きの私には最高の朝食であり、さすが北海道だ。朝食を済ませ、我々は朝市へと向かった。朝市では威勢のいいお兄さんに釣られ、多くの観光客が我先にとカニやエビに飛びついていた。しかし私はカニやエビに目もくれず、大好きなイクラを求め散策し無添加イクラを即購入した。

イクラを購入し上機嫌な私は、朝市をあ

とにし大沼国定公園へと向かった。そこで、数名でボートに乗り湖を一周した。ボートでまわっている途中、橋の下を通過する機会が何度かあった。4 月に入社後、橋梁に触れる機会が多々あったが、橋の下をじっくり見るのは初めての体験であった。こうして人に見られても、恥ずかしくない自信の橋を手がけていこうと秘かに誓った。橋を観察した後私たちは、地ビールを片手に昼食会場へと向かった。昼食では、ジャガバターや石狩鍋、さらにおいしいビールがあった。北海道の食べ物はほんとにおいしかった。ほどよくできあがった我々は、バスに揺られ尿意と戦いながら札幌へと向かった。

道中路肩の境目にある矢印を発見した。調べてみると、雪の季節に道幅を確認するためにあるらしい。この矢印により、路肩への乗り上げが激減したとの話もある。北海道ならではの発見であった。

札幌に到着し、各々すすきのの街へと散らばった。最高の時間を過ごしたのは言うまでも無いであろう。

5. 3 日目

最終日は、小樽観光の後帰路につくというプランだった。最終日ということで、オルゴール館、海鮮丼を早々に切り上げ、小樽名物 1ℓ ビールへと向かった。最後にしっかり酔っ払い私は帰路へとついた。

小樽では、遊びに夢中になりすぎて北防波堤を見るのを怠ってしまった。9 月にも北海道に行く機会があるため、その際はしっかりと見てこようと思う。

6. 終わりに

今回の道中、私は少しではあるが構造物への興味を示すようになっていた。少しずつ先輩技術者に近づけているのであろうか。

先輩方と親睦を深めようと、意気込んで望んだ社員旅行であったが、そんな不安はどこしれずとても楽しい時間を過ごすことができた。本当に、いい先輩に恵まれていると実感した。

最後に、このようなすばらしい機会を設けてくださった親睦会の皆様に、熱くお礼を申し上げ来年の社員旅行を楽しみに仕事に励もうと思う。

平成 27 年 5 月 31 日

廣井勇の功績を辿った北海道旅行

西川　徹

日本の土木史に疎い私は、廣井勇の存在を知ったのは当社に入社した後となる約 3 年ほど前である。しかし、あくまで八田與一に影響を与えた大学の先生である程度の知識であった。その後、当社の平成 27 年度入社式での吉川先生の講演において、その廣井勇の人物像を知ることができた。さらに、それに繋がるように今年の社内旅行が北海道に決まり、廣井勇の現場での大きな業績のひとつである小樽港を訪れることができた。

廣井勇が手がけた北防波堤は、細い線状の構造物であることから、華やかさは全くない。しかし、100 年以上経った今も現役で小樽の街を冬の波浪から守っている。この防波堤の姿は、高い使命感と責任感から多くの逸材を世に輩出し、日本の近代土木界に貢献した廣井勇の人生や人柄を写しているようであった。

小樽港の北防波堤とその湾内で釣りを楽しむ人々

北海道開拓に貢献した小樽運河と多くの観光客

今回の北海道旅行では最後に示した図書（参考文献）を持参して、実際の構造物を見ながら廣井勇の人生と功績を辿ることができた。

この図書の廣井勇について記述した項目立ては、1)廣井勇、インフラ近代化のこころを築く、2)権威に屈しない信念、3)札幌農学校の教育理念（人類愛と Be gentleman）、4)雄々しくも気高い廣井山脈の形成、5)與天無極、6)後世への責任感、7)比類なき数々の名著、8)友情の絆、そして土地とそこに暮らす人々への思慕、9)静かな別れである。

この項目を見るだけでも、廣井勇の人柄と功績を読みとることができた。彼の業績は、この小樽築港に加え、日本のインフラ近代化に貢献をした数多くの逸材を世に送り出したことである。技術に優れた人材を育成しつつ、技術者としての倫理観、人生観を以心伝心で伝えたようである。

現在、私は会社の若い技術者を教育する立場にあるが、技術とともにこのような倫理観、人生観を伝えられているのだろうか、かなり疑問を持ってしまった。今回の北海道旅行では、美味しいビールを飲みながら自分の人生を振り返りつつ、若い技術者の教育の難しさを考えていた。結論は出なかったが、自分自身がより良い技術者、そしてより良い人となり、それを背中で伝えることができたらと考えた。

小樽運河公園にある廣井勇像

美味しい北海道のビールを飲みながらの読書

※参考文献：「土木技術者の気概　廣井勇とその弟子たち」鹿島出版会、2014 年 9 月

北海道旅行の感想

第 2 班　　中村和弘

今回の南北海道旅行で印象に残ったのは、下記の 5 項目である。
小樽にはもう 1 度足を運んでみようと思っている。

１．　函館」の夜景
まさに 100 万ドルの夜景だった。素晴らしい。

２．　小樽市立美術館
特別展「小樽運河・いまむかし」が開催されており、90 数点が」展示されていた。小樽運河の今昔が見事に表現されており、中にはミレーなどの印象派をおもわせる光と影を上手に使った作品も鑑賞できて非常に運が良かったと思う。

3. 小樽市立文学館
小林多喜二・伊藤整・石川啄木をはじめとする小樽ゆかりの作家や文芸誌・原稿・書簡などを展示している。
特に、伊藤整の歴史を詳細に示されており、「チャタレー夫人の恋人」の翻訳者として有名である。当時、これがわいせつ書にあたるとして裁判になり、裁判では負けたが、そのおかげで一躍有名になった人である。
伊藤整が家から小樽市へ通うときの車窓風景がビデオで流れており当時そのままの座席に座って約 20 分ほど見入ったものである。

４．　小樽港北防波堤
広井勇博士の日本初のコンクリート製の外洋防波堤を遠目にみることができた。
もう一つ期待していた資料館が休館であったのできわめて残念だった。
しかし、次の機会に訪れる目的ができたことで良しとしよう。

５．　回転寿司
小樽は寿司の本場とゆうことで、昼食は寿司にした。
しかし、それほどでも無く、イオン高知前の「寿司一貫」のほうが遙かにおいしいと思った。

北海道で食いだおれ！！社員旅行に参加して

地盤防災課　山内 佐恵

1　はじめに

5 月 28 日～30 日まで 2 泊 3 日の行程で北海道旅行へ参加した。参加者は 38 名。日頃一緒に仕事をしている方，ほとんど話をしたことのない方とさまざまなメンバーとの旅行。

今回，私の旅のテーマは(株)タビックスジャパン様も掲げている『北海道で食いだおれ！！とにかく北海道のうまいもん食い尽くしツアー』。

先にお断りさせていただくが，旅のテーマが食についてのため，北海道でのすばらしい食事たちについて記載する。

天候は良好。どんな旅になるのかウキウキ気分のまま，一路北海道へと向かった。

2　初日のうまいもん（5 月 28 日（木））

（1）　新鮮な海の幸

まず，降り立ったのは函館空港。函館空港のある函館市は，北海道の道南に位置し，約 27 万人が住む都市である。そんな函館ではずせないのが函館朝市での新鮮な海の幸。北海道初の食事は海鮮味処 すずや食堂の『海鮮漁火丼』。よくテレビで海鮮丼を紹介する際に「宝石箱やぁ～！」という芸能人がいたものだが，本当に宝石箱のようにキラキラ，どの食材も「食べ頃よ」と訴えてきた。すべての海の幸が新鮮でとにかく甘くぷりぷりした食感。高知で食べる海の幸とはまた違ったおいしさを感じた。

写真 1　キラキラ輝く海鮮丼

（2）　湯の川温泉での宴会

1 日目の宿泊は，350 余年の歴史を誇る函館湯の川温泉にある『湯の川プリンスホテル 渚亭』。バスガイドさんと添乗員さん曰く，「かなりいい宿ですよ。」その言葉に心躍らせチェックインした。

写真 2　湯の川プリンスホテル 渚亭

少し早いが宴会は 17 時 30 分から始まった。

食事を始めてすぐ，バスガイドさんと添乗員さんが言っていたことに納得した。本当にどの料理もおいしく，お酒も進み，みんな上機嫌であった。

写真 3　懐石料理

3　2日目のうまいもん（5月29日（金））

(1)　函館朝市の絶品いくらとの出会い

2 日目。1 日目の夜は，美しい函館の夜景も鑑賞し温泉にも入り，本当にリフレッシュができた。絶品朝食を食べ，2 日目最初の目的地である函館朝市へ向かった。

今日のミッションは，おいしい海鮮の購入。具体的に何を購入するかは決めていない。とにかく，実際に食べてみて選ぶしかない。

まず通された店舗は，店内でカニの安売りが始まっていた。お兄さんが声を枯らし競りを行っていた。お客は満員だし雰囲気に圧倒され，買わずに出てきてしまった。

とにかく歩いてみよう！っということで散策を開始。高級メロンやトウキビ，カニにウニ。ちらちら見ながら通り過ぎる。すると，すごくきれいないくらが目にとまった。本当にキラキラしていた。見入っていると店主が出てきたので思わず試食を強請った。

話を聞くと無添加無着色で醤油を一切使用せず，特製ダレにつけ込んで作っているそうだ。ベビーホタテに特製いくらをのっけて，醤油をかけ食べてみたら絶品だった。注文を受け付けてから特製いくらを作るというこだわりよう。

店主のいくらに対しての情熱に共感し，購入。

時計に目をやると，残り 10 分。どうしても購入したかったものを店主に伝え，結局この店ですべて購入してしまった。慌ただしい買い物だったがいい買い物をした。やみつきになりそうだ。

写真 4　魅了された特製いくら

(2)　レッツゴー札幌

函館を後にし，札幌へ向かった。函館から札幌までは移動距離約 300km。途中，大沼国定公園，昭和新山を観光した。

2 日目の昼ご飯は洞爺湖のほとりにある民芸御飯の『石狩鍋懐石』。鍋の中には大きな鮭。一口食べると普段食べている鮭より弾力が強く本当においしかった。味噌仕立てのスープもおいしく何杯もおかわりをしてしまった。

写真 5　石狩鍋懐石

(3)　札幌フリータイム

食後，3 時間後やっと札幌へ到着。

札幌到着後は翌朝まで自由時間であった。

旅行前から絶対はずせないと思っていたのが『スイーツ』。私は甘いものがあまり得意ではないが…せっかく行くのであれば北海道スイーツははずせない。市内観光を間のひとときのコーヒータイムとして『Sapporo Sweets Cafe』へと向かった。旅行前に購入したガイドブックによると“札幌中の絶品スイーツが集まるお店”　とのこと。ショーケースにはおいしそうなケーキが！何を食べるか悩んだ結果，“さっぽろスイーツコンベンション”でグランプリを受賞したケーキと焼き菓子とドリンクをセットにした『グランプリセット』を注文した。

写真 6　グランプリセット

ケーキはつぶつぶの食感を残したお米が入ってあり，和のテイストを感じた。焼き菓子は最中の皮にキナコを使用し，これまた和のテイスト。どちらもおいしく，女子力高まるひとときであった。

カフェでのんびりした後，再び市内観光。晩ご飯のためにお腹を空かせる必要があったからである。

札幌の街でのお気に入りスポットは『大通公園』であった。夕方の公園は芝生の上で寝ころんでリラックスしている人がたくさん居た。なんて羨ましい光景。私の頭の中で妄想が広がる。仕事終わりにお酒片手に芝生の上でゴロゴロする，なんて最高なんだろう。とにかく，みんなが個々の時間をゆったり過ごしている光景が羨ましく感じた。

写真 7　ゆったりした時間が流れる『大通公園』

しばらく歩いて，晩ご飯を食べることにした。この日の晩ご飯は，5 月末まで開催されている『さっぽろライラックまつり』のイベントの 1 つ,『ワインガーデン』で食事することにした。高知県で言うと中央公園のような会場で，北海道の絶品食材を味わいながらワインをいただいた。

写真 8　会場の様子（昼間）

写真 9　北海道の絶品食材とワイン

4　最終日のうまいもん（5 月 30 日（土））

(1)　小樽散策

最終日は小樽観光。

小樽は，港，鉄道，にしんで栄え，今も街中のあちこちに当時の栄華が残っている。

今回，小樽観光時間は 3 時間。男性陣にはこの 3 時間が苦痛な時間だったに違いない。女性陣にとってはこの 3 時間でどれだけのお土産と観光ができるか勝負の 3 時間であった。

本当は，小樽運河や旧日銀など巡りたかったが，時間的に難しいと判断し，北一硝子のお店が並ぶ通りを散策することにした。

写真 10　散策開始

写真 11　有名菓子店『ルタオ本店』（右奥）

3 時間めいいっぱい買い物に費やした。もちろん昼ご飯抜きである。しかし，お土産店にはたくさんの試食品があり，だいぶお腹がふくれていた。ちゃっかり，お酒の試飲もしていたし満喫した小樽観光であった。

(2)　サヨナラ北海道

あっという間の 2 泊 3 日であった。

行程はタイトなスケジュールであった。時間が足りなかったからまた来たいと思った。もしかしたら，これは旅行会社さんの策略か！？なんて思ったりもした。

新千歳空港に到着し，3 日間お世話になったガイドさん，バスの運転手さんにお礼の挨拶をし，搭乗手続きを行った。

新千歳空港では，東京便まで少し時間があったので，北海道最後のグルメを堪能した。最後のシメは，札幌ラーメンにした。

新千歳空港内には『北海道ラーメン道場』という場所がある。複数のラーメン店が出店している。

ここでは，けやきというラーメン店で『ネギ味噌ラーメン』を食べた。これで北海道での食事も最後なんだと思ったら，少し切なくなった。

北海道での思い出話やまだまだ買わなければならないお土産の話をしながら，ラーメンをすすっていた。

写真 12　けやきの『ネギ味噌ラーメン』

5　おわりに

今回の旅行は，本当においしいものを求める旅だった。もちろん，北海道の大自然などもすばらしかったが，こんなにストイックに食を追い求めた旅行は未だかつてなかった。

この旅で何より嬉しかったことは，ご一緒させてもらった女性陣に喜んでもらえたことだ。旅行から帰ってきて「本当にありがとう。いい旅行やった。本当に楽しかった。また，一緒に行きたいね。」と言ってもらえたことが一番嬉しかった。毎日大笑いして，おいしいものを食べて，美しいものを鑑賞して楽しいことを共有できる機会なんて，こういった旅行の時しかないのだから。

写真 13　第 2 班の女性陣

これから 1 年またハードな日々が始まる。コミュニケーションを深めて，このハードな日々を協力しながら乗り越えていければいいなと思う。

最後に，(株)タビックスジャパンの松本様，エイチ・ビー観光(株)の樋口様，鈴木様。3 日間お世話になりました。ありがとうございました。

北海道旅行（二班）5/28～5/30

設計一部　地盤防災課　北村暢章

・海鮮丼

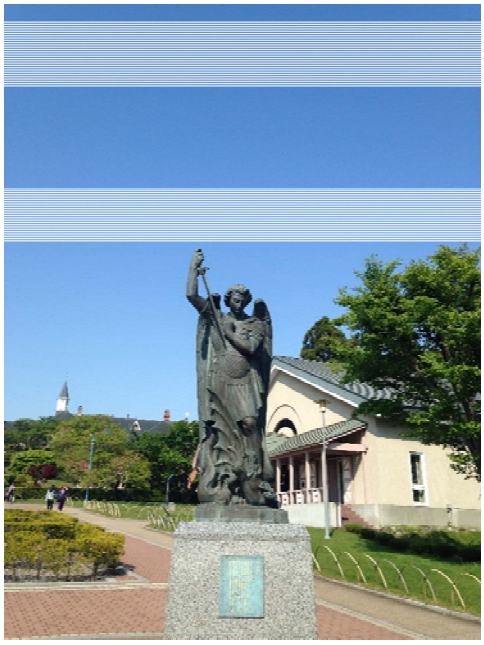
北海道の海鮮丼は、高知で食べることのできる海産物とは違うものだった。私は、イクラを美味しいと思ったことがなかったが、北海道のイクラは、とてもおいしかった。2 日目に、すずや食堂近くの金浜商店でイクラと数の子を購入した。

・五稜郭公園

土方歳三の亡くなった地であることぐらいしか知識のなかった五稜郭だったが、観光地として非常に良い景色を眺めることができた。限定商品のサクランボソフトクリームは、変わった味ながらとてもおいしかった。

・トラピスチヌ修道院

勉強不足ながら名前すら聞いたことのなかった日本最初の女子修道院だったが、ミカエルの像があったり、ノブの無いドアがあったりと興味深い場所だった。特に不思議だったのは、階段を左回りに使うことだった。



・函館山

100 万ドルの夜景と言われるだけあって、非常にきれいな夜景を楽しんだ。また、修学旅行生がとても多く驚いた。夜景の中にカタカナで「ハート」の文字があると聞いて一生懸命探したが見つからなかった。

・小樽

小樽では、オルゴール堂や北菓楼、ルタオを巡った。　オルゴール堂には、蒸気のオルゴールがあり大きく立派だった。北菓楼、ルタオでは、有名なお菓子が多く、ソフトクリームやドゥーブルフロマージュを食べた。有名なだけはあってとてもおいしかった。

3 日間という短い間だったが、普段あまり話せない社員さんと交流でき充実した旅行だった。

社員旅行レポート

嘉藤　敬佑

5月28日から30日にかけての社員旅行で、印象に残っている点などについてレポートします。

28日の高知から羽田への飛行機は、特別塗装機の「ゆめジェット」であり、早速さい先の良い出発となりました。朝日の中高知を離陸し、富士山を見ながら、いつもなら仕事が始まってすぐの時間帯に東京羽田に到着。東京まで、飛行機だとわずか1時間30分ほどで到着できる世界も、個人旅行の際には陸路、海路しか選択しない私には、こんな機会がないと体験することがないものです。その後乗り換えた函館行きはちょうど東北地方の太平洋側上空を通過したことから、眼下に震災で津波被害を受けた、白っぽい土地を見ることができ、遠巻きながら復興の道筋が見えない東北の現実を感じました。そして、昼には函館に到着。朝高知を出て、昼には北海道に到着してしまったという事実は、かつて一昼夜かけて高知から青森まで旅をした身の上にとっては、やはりその距離と時間の感覚に少なくない戸惑いを覚えさせるものでもありました。幾ばくか、おもしろいと思うこと、現代日本の諸問題を感じることができても、果たして人間のスケールを遙かに逸脱した飛行機は旅の乗り物といえるのか、所詮は”輸送装置”ではないかと思えてくる側面があります。

それでも函館に降り立ち、スケール感が人間サイズに戻れば、旅の楽しみを感じる余裕も出てきました。バスガイド付きの貸し切りバスに揺られてお仕着せで3日間北海道を旅するという内容なのですが、今の時代こんな旅はもはや下火の一方であり、だからこそ消えてしまう前に楽しみたいものです。担当バスガイド嬢に恵まれたことも、楽しみを増幅させてくれました。何しろ今年70才という大ベテラン、その語り口はずっと聞いていても飽きることはありません。函館市場内のお昼の食事場所も、団体向けの食堂と言った雰囲気で、どこか30年くらい前にタイムスリップしたようにも思えてきました。早々と食事は済ませ、バス出発の時間まで、すぐ近くに展示されている旧青函連絡船の摩周丸を外からしばし眺めます。個人的には、津軽海峡はいつぞや船で渡りたいと思うのですが、時間が全てを支配する現代において、そんな旅は可能なのでしょうか。

午後から、まず五稜郭へ。ここも定番であり、駐車場にはたくさんの観光バス。五稜郭タワーにのぼって、五稜郭を見るのは普通のこととして、駐車場にたむろする観光バスもまた見逃してはなりません。バスガイド嬢曰く、乗っているバスには北海道では珍しく屋根にバス会社名を書いてあるからきちんと確認とのこと。なるほど、乗ってきたバスにだけ、屋根に会社名が大書きしてありました。トラピスチヌ修道院では、可能な限り自給自足の生活を行うというものに触れて、人間が生きる本質とはいかなるものかということを考えました。

函館では、一人旅ならまず泊まることはないであろう旅館に宿泊で、さらに宴会付きというこの旅で一番団体旅行らしさを感じる場面となりました。その夜は函館山からの夜景を見に行きます。函館山からの夜景そのものは確かに美しいもので、近代文明がもたらす名所でありますが、一方で大量の電気を使うことには変わりなく、原発を再稼働させないためにも、こんな名物を喜んでばかりはいられないとも思いました。また、観光名所で名所過ぎるのか、人が多すぎて、どうもこのあたりにも違和感を覚えました。

二日目は、あちこちによりながら函館から札幌へと向かいます。最初に寄った函館市場は早々に離れて、前日は外観を見るだけだった摩周丸の船内を見学します。かつて多くの人を乗せて津軽海峡を渡った船。短い時間ではありましたが、この北へ向かうルートの歴史の重みを追体験しました。見学後は函館を出発して、次は大沼公園に立ち寄ります。モーターボートにも乗せていただきましたが、この場所は全体的には現代の個人旅行にはあまり対応できないのではないかと思える場所でした。平日だったせいもあるかもしれませ

んが、駐車場はかなりすいており、また公園内も人はあまりいなかったように思います。大沼公園の次は、昭和新山が立ち寄り場所です。ここは観光地としてより、自然災害の観点から見るべきところが多くありました。特筆すべきは、この昭和新山の一連の活動が、戦時中だったにもかかわらず多く記録に残されているところです。当時の社会情勢を考えればおおっぴらに行動することはできません。そんな中でも、この記録を残した三村正夫氏には時代を超えて敬服するところであります。こういった功績があるからこそ、現代の防災に大いに役立っているのは言うまでもありません。四国にはない、火山災害の備えを見ることができ、防災の分野の広さを感じました。そして、本当に偶然ですが、火山について考えているまさにそのときにこの国の中で本当に火山の噴火が発生していることを後に知り、何か因縁めいたものがあるのでは、と思わずにはいられませんでした。この先、災害に見舞われなければいいのですが・・・。昭和新山でもう一つ驚いたのが、同時に大勢の中国人観光客がやってきていたことです。”80 人”ではなく、”バス 80 台”でやってきていたとか。13 億人の国の底力は侮れないものです。

昭和新山を後にして、一路札幌へと走ります。車窓に広がるのは広々とした大地。高速道路からの景色は総じてつまらないものですが、ここは北海道らしさを見ることができます。牧場なども近接していましたが、自然に近い動物はクルマの出す排ガスを嫌うのでしょうか、あまり高速道路にまでは近寄っていませんでした。人間の都合ばかりを考えた開発で、自然が改変されてしまうのは考え物です。それが巡り巡って、人間自らの生命維持装置である大気を変えてしまうことになるのですから、余計に恐ろしいものです。

札幌が近づいてくると、景色は都市へと一変します。個別の建物をよく見ていくと北海道らしいものなのですが、町並み全体では大都市そのものです。特に、札幌市内で高架の高速道路が市街地を通っている風景は、東京や大阪のそれと変わりがありません。さすがに日本で 5 番目の都市圏だけのことはあります。

さて、札幌では自由時間が十分に確保されていたことから、いくつかの見ておきたいポイントを訪れました。まず、今札幌で一番見るべきところは、やはり札幌市電のループ化工事でしょう。今年度中には環状線化されると言うことで、新ルートとなる札幌駅前通りなどでは工事が進んでいました。すすきの電停は環状線化工事のため、仮設乗り場になっていて、若干不便と言った場所にありましたがこれもごく短い期間だけのことです。新しく路面電車が通ることになる札幌駅前通りは大変な盛り場で、わずかな距離とはいえ、この区間は電車軌道が歩道側に設けられることになっていて、まさしく町中の水平エレベータとして新しい都市交通形態をもたらしてくれることでしょう。これをきっかけに、特に地方で進行した自動車に依存しきった日本の交通の見直しが進んでくれればと期待します。

また、札幌で買いたかったものも入手することができました。北海道と極東ロシアの関係について書かれた本を買いたかったのですが、うまく入手することができました。札幌は極東ロシアから見れば一番近くの 200 万都市で、さらに旧西側諸国の大都市なのです。極東ロシア管内の大都市はウラジオストクが最大とのことですが、それでも人口は約 60 万程度であり、そのため、モスクワから遠く離れた辺境の地にとって、札幌は魅力的な大都市に映るようです。特に冷戦後は、たびたびロシア側から北海道を拠点にして極東ロシア開発をしたいという申し入れが行われているようで、それは日本にとってもプラスになることだといえます。そこで、その最前線にある北海道なら、そういった本も流通しているのだろうと踏んでいたのですが、ちょうど札幌駅ビルの三省堂で北海道の出版社が刊行した本のフェアが行われていました。あれこれ迷ったのですが、北海道と極東ロシアを駆け回った NHK 記者の本と、千島列島を巡る日ロ関係について書かれた本を買うことにしました。これらの本はきっちりと読み込んで、より国際理解を深めたいと思います。前述の札幌市電ループ化と併せて、北海道が、そして日本がどう変わっていくか、そのフロンティアを見たように思いました。

三日目は小樽の自由散策と言うことで、どこに行こうかと迷っていたのですが、結局は北海道最初の鉄道路線である手宮線跡と、旧日銀小樽支店を改装した金融資料館を見学しました。手宮線跡は、現役当時の線路がほぼそのまま残されており、今にも列車が走ってきそうな雰囲気です。北海道が開拓されていったその息吹を今に伝えています。本当に行きたかったのは手宮線跡をたどっていったその先にある小樽市博物館ですが、ここに行くと丸一日かかるのは間違いなく、それはいつか行こうと考えている個人旅行の時にしたいと思います。さて、金融資料館は改めてお金の不思議さを実感しました。単なる加工した紙切れやかたどった金属片で、ありとあらゆるものと交換できるのがお金です。どうしてそんなことが可能なのか、みんながお金と思っているからお金なのだという、何とも不思議な答えがそこにありました。日銀周辺にあるかつての金融機関建物群と併せて北のウォール街と言われた場所ですが、そこに立っていると、ますますお金の奥深さを感じるとともに、どんな地であってもお金がない世界は考えられないと思う次第でした。最後に昼食は周辺が観光客向けでかなりお値段が高価だった中、一軒だけたたずむ街場の大衆食堂を見つけ、そこでいただきました。建物も、北海道らしさが出ており、それでもお客さんがあまり入ってこないのは不思議でした。

小樽を出た後は高速道路を利用してほぼノンストップで新千歳空港へ、そこから飛行機で一気に羽田へ、羽田乗り換えで高知へと帰ってきました。帰りも、北海道でお昼ご飯を食べながら、その夜には高知に帰ってきているという感覚に、またしても少なからず戸惑いを覚えました。どうやら私は、よほどのことがない限り飛行機は使ってはいけないようです。

全体を通してですが、この手のツアーという旅はさもすれば詰め込みになりやすく、旅を楽しむ余裕があまりないといわれます。今回も、もう少しゆったりとした行程であればと思いました。こういったパッケージツアーが今後どのようになっていくか、その点にも目が向いた旅になりました。

社員旅行レポート

空間情報課　長崎悟史

期間：2015/5/28（木）～ 30（土）※第 2 班
場所：北海道（函館、札幌、小樽）

＜感想＞

旅行期間中は天気に恵まれ、人生で初めて行く北海道の景色、温泉、新鮮な海産物等の食事を存分に味わうことができました。また、終始和気あいあいと旅行の楽しさを味わい、普段接することの少ない参加者とも親睦を深めることができたと思います。

とても７０歳には見えないバスガイドさんによると、道北方面や冬の北海道も魅力的で、北海道には季節を変えて１６回は来る価値があるとのことです。あと１５回は無理だとは思いますが、冬の北海道には、家族を連れて一度は行きたいと思います。

以上

社員旅行記

岡　　潔

午前六時半、妻に送られて高知龍馬空港に着くと、もう何人かの社員がロビーで待っていた。その半数近くが、私の倍ほどの大きなバッグを持って来ている。不思議に思って聞いてみると、第一班から寒かったとの情報を得て服をたくさん持ってきたらしい。中にはダウンジャケットを持参したという者も二人いた。

搭乗ゲートを抜けると、早朝にも関わらず早速ビールを求めて売店に向かった。普段なら会社に向かっている頃だ。それを考えると少々後ろめたいが、せっかくの旅行なのだから、思い切り楽しみたい。何人かで乾杯すると、効果覿面だった。禁断のビールが、非日常のモードへのスイッチを入れる。途端にすっぱりと仕事のことも忘れていた。羽田でもビールを飲んで、一路函館へと向かう。その日は若干の市内観光をして、三時半にホテルへと着いた。

日本海を望む広々とした露天風呂で、友人とこれからの旅行についての作戦を練る。私たちのグループは、訪問先で地元の人たちと交流をしたかった。これまでも国内外を問わず、楽しい思い出を作ってきている。この後函館では宴会があり、周辺には人の集まるような場所もなかった。その日は外で軽く呑むだけに留めて、自由時間の長い札幌に備えることにした。

二日目の札幌では、すすき野の居酒屋で一班から勧められていた島ホッケとアスパラに舌鼓を打つ。本場でしか味わえない味は、たしかにあった。ホッケは柔らかく、さらりとした油がおいしいし、アスパラは素材の甘さに驚かされる。

続いて、何人かで大通り公園に向かった。開催されていたワインフェスタはシステムがわからず、係の人に説明して貰う。ボトルかグラスワインを買って、空いている席に座って呑むのがルールらしい。早速ワインのボトルを買い込んで、地元らしいグループに乱入した。

私たちが高知から来たことを伝えると、気軽に仲間に入れてくれた。二週間後には、この大通り公園で『よさこいソーラン』が行われるという。よさこいは高知が発祥だと自慢してみたが、知っている人は少なかったのは意外だった。

その後もボトルを買い足し、何組かと親交を深めた。偶然その中の一人が、翌月にはツアーで四国を訪れるという。妙にうれしくなって、高知の観光スポットやおいしい塩タタキの店を教え、困った時には連絡するよう名刺を渡した。イベントの終了まで呑み続けて千鳥足の私たちは、やっとの思いでホテルに辿り着いた。

翌日の小樽は、土木遺産や広井勇関係の史跡を回ろうと決めていた。日本における近代土木技術の黎明期において数々の功績と後に続く人材を育てた彼の人生は、郷里に偉人として尊敬に値する。楽しみにしていた『おたるみなと資料館』には入れなかったが、予備

知識があっただけに外の展示物は感慨深かった。

自由時間は、胸像があるという公園まで二十分かけて運河沿いを散策した。何の変哲もない町外れ公園に、広井は真っ直ぐに海を向いて佇んでいる。その北防波堤を見守る穏やかな目には何の野心も感じられず、その人柄を物語っているようだった。

その先を少し行けば、鱗友朝市という市場があると地元の人から聞いていた。広い駐車場もない市場には、一般家庭の食卓に上る魚介類が並んでいる。地魚や海産物が、驚くほど安く売られていた。函館の朝市などの観光市場と比較すると、蟹やイクラも三〜四割ほど安い印象を受ける。そこで家族への土産を買って、私の旅行は完結した。

今回の旅行は天気にも恵まれて、上着なしでも過ごせるほど快適だった。日数も少なく多少急ぎ過ぎた感もあるが、十分に満足している。これからも社員旅行にはできるだけ参加して、社員の親睦を深めていきたい。

2015 社員旅行記 ～初夏の北海道旅行～

2015/5/28～2015/5/30
村岡　志郎

～1.出発（高知➢北海道）～

私にとって人生 2 度目となる北海道旅行は、前任地の社員旅行でナイタースキー中に釧路沖地震が発生し（M7.5_1993/1/15/20:06）、長時間にわたるリフトの緊急停止により宙吊り状態となり、凍死する恐怖をあじわって依頼となります。当時はまだ若く、他にも武勇伝を残してしまった旅行でしたが、今回はどうなることかと思いをはせながら高知龍馬空港を 2 泊 3 日の旅に出発しました。

～2.観光編～

2.1 北海道大学（2015/5/30/6:00～）［写真-1］

大学は、宿泊ホテルから徒歩で 20 分程度です。「Boys,Be Ambitious!」で有名なクラーク博士の銅像を観にいきました。キャンパス内は緑が多く、環境の良さに驚きました。早朝からマラソンや犬の散歩など一般の方に開放され、親しみを感じました。

写真-1 北海道大学/左：古川記念講堂/右：クラーク像

2.2 ニッカ余市蒸留所（2015/5/30/10:00～）［写真-2］

小樽駅から高速バスで、30 分程度で余市駅に到着すると、目の前にニッカ余市蒸留所が見えてきます。

NHK 朝の連続ドラマ「マッサン」のファンであった私は、一度行ってみたいとの衝動にかられ、自由時間を利用して見学させていただきました。

場内は、スモーキフレーバーの良い香りが印象的です。

写真-2 ニッカ余市蒸留所/左：各種作業棟/右：蒸留棟

～3.食事編～

3.1WINE GARDEN2015（2015/5/29/19:00～）［写真-3］

旅行前に視た食レポ番組の食事風景が、まさに目の前にありました。店舗に囲まれた中央部にテーブルが並んでいますが、観光客や地元の仕事仲間で満席状態！心地よい気候のもと、ワイン片手にザンギ（唐揚げ）、じゃがバター、ホタテ焼きを堪能しました。

写真-3WINEGARDEN2015/左：店舗/右：焼きハマグリ

3.2 ススキノ繁華街（2015/5/29/22:00～）［写真-4］

宿泊ホテルから徒歩でも行ける距離ですが、好奇心から札幌の地下鉄を利用して繁華街まで行きました。

繁華街の規模や繁盛ぶりは、観光地で 195 万都市を感じさせ、高知との違いを痛感しました。

ラーメン横丁のラーメンはピリ辛でおいしかったです。

写真-4 ススキノ/左：繁華街：/右：横丁の札幌ラーメン

～4.土木遺産編～

4.1 小樽港北防波堤（2015/5/30/12:00～）［写真-5 右］

小樽港は湾内静穏度がとても良く、100 年以上継続して防波堤の効果が発揮されていることや、百年試験が継続されている事実に感動するばかりです。

4.2 小樽運河（2015/5/30/13:00～）［写真-5 左］

運河周辺は、古い倉庫が建ち並び左岸側の通路を歩く観光客の多くがアイスクリームなどで涼をとるなど、天候に恵まれ、予想以上に暑い観光となりました。

写真-5/左：小樽運河/右：小樽港北防波堤

～5.到着（北海道➢高知）～

少し遅れて到着した高知はあいにくの雨模様で、湿度の低い北海道と比べ少し不快でしたが、迎えに来てくれていた家族と合流し、旅の疲れが癒やされました。また、高知到着前に小笠原沖で強い地震が発生（M8.5_2015/5/30/8:24）していたことを知り、過去の北海道旅行の経験が思い出されました。

末筆ながら、旅行を企画、運営していただいた全ての方に感謝する次第です。ありがとうございました。

北海道旅行記

河川砂防課　吉田　直起

写真 1

旅行期間

5 月 28 日～5 月 30 日（2 泊 3 日）

旅行行先

1 日目･･･函館周辺を観光

2 日目･･･札幌周辺を観光、

1 日目

五稜郭

五稜郭タワーは、高さ 100m 程度あり、最上階からは、五稜郭を見ることができます（写真 1）。ソフトクリームやお土産店もあり、五稜郭をゆっくり眺望しながら食べられるのでくつろぐことができました。

五稜郭の中心には、箱館奉行所がありました（写真 2）。中は資料館、建築物にしては、きれいな状態で残っていると感じました。しかし、お堀りの石積みがはらみ出し、立入禁止になっていました（写真 3 写真 4）。

写真 2

宴会～100 万ドルの夜景観賞

湯の川ホテルでの宴会は、畳部屋で広い空間でしたので動きやすく、お酒を酌み交わすなど、楽しく宴会ができました。

20 時からはバスで 100 万ドルの夜景観賞に行きました（写真 4）。到着場所には、高校生や中国人などたくさんの観光客がいました。夜景を上から見るのに人が密集していて、展望台の頂上に辿り着くまで苦労しましたが、見る景色は、最高でした。

写真 3

写真 4

湯の川温泉

午前１時と午前５時に湯の川温泉に入りました。夜は、風が心地良く、景色を堪能できました。１日目の旅の疲れがとれたと感じました。

朝は、夜見ることができなかった景色が霧に隠れてはっきりと見ることはできませんでしたが、近くからは広い浜辺をはっきりと見えました。また、サウナに入るなど一層疲れをとることができました。

写真 5

２日目

函館朝市

箱館朝市は、１日目で土産を決めていたので、スムーズに買うことができました（写真 5 写真 6)。カニなどの食材は高価でしたが、北海道の新鮮な食材を購入することができて良かったです。

写真 6

洞爺湖での昼食

洞爺湖では、石狩鍋を食べました（写真 6)。日本人の観光客は少ないようで、外国人の観光客が多い店とのことです。食材も多く、その中でも石狩鍋の汁は甘さがあってとてもおいしかったです。

写真 7

札幌市内観光

ジンギスカン

ジンギスカンを食べに札幌市内の商店街に行きました。羊の肉は臭みもなく脂も少ししかなかったので食べやすかったです。

札幌ラーメン

札幌は、味噌が有名だと聞いたので、味噌ラーメンを食べました(写真 **7 エラー! 参照元が見つかりません。**)。麺は太麺だったので食べにくいと感じました。でも、味噌は濃厚なスープでなく、さっぱりした感じだったのでおいしかったです。

ワイン

深夜 12 時頃にワインを飲みに行きました。8 人でボトル 2 本、おつまみにチーズとハムなどを頼みました。オシャレな雰囲気で楽しく飲めたので良かったと思います。ワインを飲むことは、自宅や会社の人でもあまり飲む機会がないので社員旅行で飲むことができてよかったです。

写真 8

3 日目

小樽市内

小樽市内は、歩きながらでも楽しめる観光地だと思いました。市内には、オルゴール党（写真 8）、ルタオの本店、ラーメン、海鮮丼など周りには北海道で有名な店がたくさんありました。

昼食は、海鮮丼とラーメンを食べました。量は少なかったですが、20 食限定の海鮮丼（写真 9）を食べることができたので良かったです。

写真 9

新千歳空港

新千歳空港には、白い恋人、市場など買う時間がなかったお土産店がたくさんあり、買うことができなかったお土産を買うことができて良かったです。

一幻と言うラーメン店に行きました。エビで出汁をとっているため、エビ本来の味がでていて、高知にはないラーメンを食べることができ良かったです（**写真 10**）。

写真 10

終わりに

今回の 2 泊 3 日の北海道旅行はグルメ、景色、温泉、観光地などたくさんの所を見る機会に恵まれて良い旅行になりました。宴会では普段話せない方とも話すことができとても有意義な時間となりました。今年も頑張ろうと思える旅行となったので良かったです。

社員旅行を終えて

生田　万祐子

5/28～5/30 の３日間、北海道へ社員旅行に行ってきました。

思っていたよりも寒くもならず過ごしやすい陽気で、天気にも恵まれた為、3 日間おおいに楽しむことができました。

１日目は函館を満喫しました。

昼食として函館市場で豪華海鮮丼をいただきました。どの食材も新鮮でとてもおいしかったです。

函館の市場で昼食を取った後、五稜郭、トラピスチヌ修道院を見学に行きました。

五稜郭はいつか行ってみたいと思っていたのですが、なかなか行ける機会もなく、自分の目であの星の姿を見ることができたことになんともいえない興奮を覚えました。タワーからは五稜郭の全貌を眺めることができ、また、函館の町を見渡すことができました。人口は札幌、旭川に次いで第３位ということで、北海道の代表的な都市であり、函館というと大きな都市のようなイメージを持っていました。しかし実際には、北海道という広大な土地に対して、想像していたよりもずっと小さな都市だという印象を受けました。今回は時間の関係で五稜郭の中を散策することができなかったので、次の機会には是非五稜郭の中もじっくり楽しみたいです。

トラピスチヌ修道院は厳かな雰囲気が漂っており、静かで神聖な空気に包まれていました。実際に修道女の姿を見ることはありませんでしたが、写真などでその様子を展示しており、修道女達の生活を垣間見ることができました。修道女達は選挙の時・家族の危篤・自身の病気以外はずっと修道院の中で自給自足の生活をしているとのことです。死後も修道院内の墓地に葬られ、文字通り一生を捧げています。

夕食の宴会ではとても豪勢な会席料理を満腹になりながらも全ておいしくいただき、待ちに待った函館山の夜景を見に行きました。函館山は霧がよくかかるらしく、きれいなワイン型の夜景を見ることができるのは意外に少ないのだとガイドさんに言われていたのですが、ガイドさんの寝ずの祈りのおかげか、きれいに見ることができました。ちょうど修学旅行中の学生でごった返していたため、夜景を見られたのはほんの 5 分程度でしたが、今でも目に焼き付いて街の灯りがきらきら輝いています。

その後ホテルに帰り、湯の川の温泉で体を温めました。私は温泉が好きで、遠出をする先々でよく温泉に入るのですが、ここのホテルの露天風呂はなんと言っても目の前いっぱいに広がる海の景色がとても気持ちよく、ゆっくり疲れを癒やすことができました。

タワーからの五稜郭の姿

函館山の 100 万ドル夜景

２日目は、函館から札幌への約 300km の大移動でした。

早朝には朝靄に包まれた津軽海峡を眺めながら露天風呂をもう一度楽しみました。

朝は名物の函館朝市へ行き、そこから大沼公園、昭和新山、札幌へと移動しました。大沼公園ではモーターボートに乗せてもらったり、昭和新山では一同で写真を撮ったり、洞爺湖の近くで名物石狩鍋をいただいたりと、移動距離も長い中、案外バタバタと時間が経っていったように思えます。名物の石狩鍋は鮭の出汁と味噌がとてもよくマッチしており、じゃがバターもジャガイモの味が濃く、あまりお腹に余裕がなかったにもかかわらずついつい箸が止まりませんでした。洞爺湖の向こうに聳える羊蹄山に見送られ、札幌へと移動しました。移動が長く退屈するかと思っていましたが、ガイドさんにとても丁寧かつ面白おかしく工夫を凝らし説明していただけて、寝る暇もなく景色と話に食い入りました。北海道は高知と違って遠くに山を見て平野の中を走っていく道が多く、トンネルも少なかったように思います。途中、牧場の牛や競走馬も見られたりして、北海道に来たんだなと実感しました。

札幌市に入ると、それまでの広大な自然の景色とは打って変わって、綺麗に整列された家々がたくさん見え始め、あっという間に都会の風景になりました。ホテルに荷物を置き終わると、すぐさま札幌観光を開始しました。時計台はもちろん、テレビ塔、札幌駅、旧道庁と、代表的な観光地を回り、カフェでスイーツを囲んでの女子会や、ショップを見たりした後、たまたまやっていたイベントの出店で北海道の食とワインを楽しみました。時計台や旧道庁、また JR タワー等、色々な所に星のマークを見つけました。そういえば、サッポロビールや五稜郭も星のマークが印象的です。後々調べてみると、どうやら開拓使の旗が星のシンボルだったらしく、そこからきているようです。

洞爺湖越しに聳える羊蹄山

名物石狩鍋

大通公園にて

旧道庁と一緒に

社員旅行最終日の３日目は、スイーツの町小樽観光です。

ロマン溢れるレトロな町並みと、有名スイーツ店がずらっと並び、ガラス細工やワインなどの店がたくさんありました。小樽の町並みをゆっくり眺めたりもしたかったのですが、最終日ということもあり、ほとんどの時間をショッピングに費やすことになりました。特にガラス細工にはついつい見入ってしまい、時間がいくらあっても足りない!と思ってしまいました。

小樽の街を観光

記念撮影中

この３日間では北海道のほんの一部しか訪れることはできませんでしたが、まだまだたくさんの見所がありそうです。距離も遠くなかなか簡単には来ることはできませんが、またプライベートでも来たいなと思いました。今回このような機会をいただけて、とてもうれしいです。

第一コンサルタンツに入っていつの間にか３年目に突入いたしました。それでもまだまだ未熟者です。しかし、旅行を通してまた少し会社の方々と距離が縮まったかと思います。女性メンバーも普段あまり交流する機会がないメンバーでしたので、また違った楽しさがありました。

また、今回お世話になった添乗員さん、ガイドさん、ドライバーさんにはとても感謝しています。ガイドさんは 70 歳とは思えない美魔女ぶりで、ゆったり口調に茶目っ気たっぷりというなんとも魅力的な方でした。お話も面白く、終始楽しくバスの中でも過ごせたのはガイドさんのおかげだと思います。最後まで３日間このような素晴らしい旅を楽しめ、また現地での景色やものを見ながら説明していただけて、北海道の大きな魅力を一部ですが知ることができました。ドライバーの方も私たちの為に長距離の運転の中、事故もなくスムーズに日程をこなしてくれ、添乗員さんにも先導をしていただき、本当にありがとうございました。

今回はほとんどくいだおれの旅となりましたが、全力で楽しんだと思います。また一年、仕事が頑張れそうです。

平成 27 年北海道社員旅行に参加して

（第 2 班）矢田歳洋

今年は，2 泊 3 日で函館～札幌～小樽と南北海道に行って参りました。

私は，北海道には 3 回目の上陸となりますが，車窓から見る風景は，北海道ならではの雄大なもので，気候の違いによる樹勢植物の違い等，高知からは遠く離れた土地であることを再度，実感いたしました。　【五稜郭にて】

今回の北海道旅行は，特に観光等の目的はありませんでしたので，入社式での古川先生の特別講演「土佐が生んだ土木偉人　広井勇の生涯」で聞いた小樽の北防波堤等は見ておかなければと見てまいりました。私は，堤防の製作・施工に関する知識等はありませんが，見学に参加していた設計部の方々が興味深く会話していたことが印象に残っています。【小樽にて】

3 日間，社員の親睦はもちろんのこと，いろんな方との交流もできおいしい食べ物を食し酒を飲み，楽しい親睦旅行でした。 会社に感謝いたします。

北海道研修について　　三浦貢一

長いようで短い「2 泊 3 日」の北海道。広大な土地を満喫するには滞在日数が少ないがとても有意義な研修となりました。台湾，東京，北海道と近年社内研修により次年度への期待も多くなるなか，仕事に仲間にも楽しみを抱きながら良い会社を築くために進んでいく思いです。

【観】

いろいろな建物，文化などを拝見してみて名前は聞いたことはあるが，意味，歴史などは不明確であったため，本研修によって観る，聞く，体感することで人生の経験としてもプラスになり今後は何事にも興味を持ち，先へ活かせるよう学んでいきたいです。

【食】

北海道のメイン食材である海の幸が豊富であり，家族に申し訳ない気持ちで楽しみました。個人的に特に海鮮ものを好み，「食」に対してはいつも以上に満喫できたかなと。

【和】

本来の社内行事と違い心が緩くなっていることもあり，上司，若手社員との交流も多く，普段とは違う一面も垣間見てとても貴重な時間を過ごすことができました。今後もよりいっそう親睦を深め，仕事も含め楽しい第一コンサルタンツでありたい気持ちです。

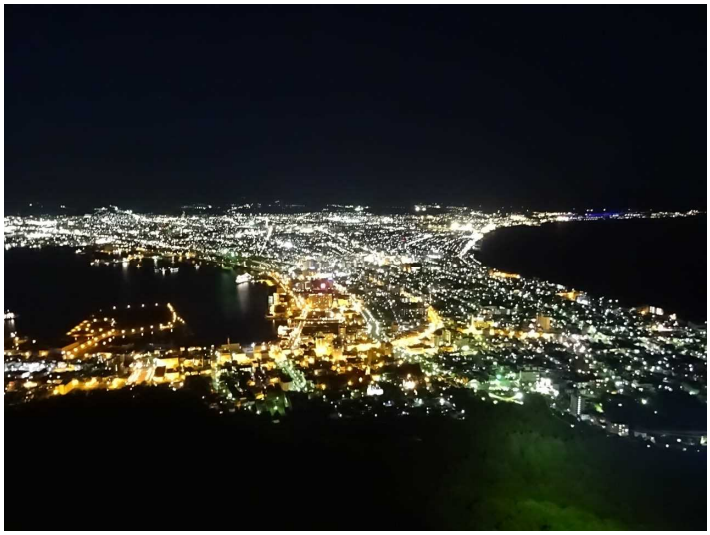
＊すべては楽しんでいない部分もあるので一度は家族で訪れればと思います。

社員旅行　レポート

小松　椋司

初めての社員旅行でしたが、自由行動や飲み会などとても楽しく、いい思い出ができました。

印象に残っていることは、函館の夜景と 2 日目の自由行動が思い出に残っています。函館の夜景は、観光客が多くて見るのも大変でしたが、写真などで見るよりもきれいだったし、料理もおいしくいい所でした。五稜郭は意外と広くて、きれいな所だったのが印象に残っています。



すすきのでは、初めてジンギスカンを食べて街を散策したりして、いい思い出ができました。他にも五稜郭や、洞爺湖などの名所や小樽のオルゴール館など、きれいな所もあって北海道はとてもいい所でした。

平成 27 年度社員旅行

調査一課　西村研了

一日目

自身初の北海道。5 月 28 日 AM6:50 高知空港に集合し羽田を経由し函館空港に向けて出発。

まず、函館に到着し向かった先は函館朝市内にあるお店で海鮮丼の昼食。

昼食後向かった先は、日本初の女性修道院トラピスチヌ修道院と五稜郭。そこでは北海道の歴史を学んだ。

（トラピスチヌ修道院にて）

（五稜郭展望台にて）

（五稜郭近くのハンバーガ店にて）

一日目の宿泊先は、湯の川プリンスホテル渚。夕食は懇親を深めるために飲み放題付きの宴会。

二日目

ホテルを AM8:00 に出発し向かった先は函館朝市での海鮮類の買い物。

（買い物客でにぎわう函館朝市）

買い物を後にして向かった先は、新日本三景の一つ大沼国定公園と天然記念物昭和新山。大沼国定公園の景色は絶景だった。

（大沼国定公園）

（昭和新山）

昼食は、主要国首脳会議洞爺湖サミットが開催されたこともある洞爺湖のほとりにて石狩鍋懐石の昼食。

（石狩鍋懐石と生ビール）

昼食後は目的地札幌までバス移動。

（バス移動中）

（札幌時計台・車窓観光）

（夕食はホテル近くの居酒屋で海鮮焼き）

三日目

ホテルを AM9:00 に出発し向かった先は小樽市内での自由時間。

（小樽市内のお土産街）

（昼食はお寿司と生ビール）

PM13:15 小樽市内を出発。新千歳空港に向かい羽田経由で高知に帰った。

（三日間お世話になったバス）

最後に、今回の北海道旅行では歴史･文化も学べた。食べ物もおいしく、気候もよく（湿気がない）、ビールもおいしく、景色も絶景ばかりで、バスガイドも素晴らしかった。北海道はでっかい道なので、今回行けなかった別の地域にも機会があれば行ってみたいと思う。本当に楽しい旅行だった。

社員旅行レポート

調査測量部　調査一課　主任　山本崇顕

平成 27 年の第一コンサルタンツの社員旅行は北海道。私は第２班の班長として出発した。

高知から乗り継ぎ、函館空港へ到着。1 班からの情報では、寒かったという声もあり少々不安でしたが、快晴でとても過ごしやすい気候でした。

函館空港からバスに乗車して昼食会場の函館朝市に到着し、海鮮丼をいただきました。高知でも新鮮な魚貝を食べることができるが、北海道は別格でした。ウニとイクラが食べられない私でも、北海道産はおいしくいただくことができました。

次に向かったのは五稜郭公園とトラピスチヌ修道院。五稜郭タワーから見ることのできる五稜郭はきれいに整備されており、そのスケールに圧倒されました。

トラピスチヌ修道院では、他の観光名所とは雰囲気が異なりそこだけが静かに時が流れているような感覚でした。

夜は湯の川温泉で宴会後、函館山にて 100 万ドルの夜景を観賞。土地の広い高知では鑑賞できないような、両サイドが海に囲まれた夜景がとても印象に残りました。

札幌市内へ向かう途中、大沼国定公園と昭和新山へ寄り自然の力を見ることができた。大沼国定公園では駒ヶ岳を背景に雄大な湖を、昭和新山ではいまなお煙を吹き出しながら存在感を示す武骨な姿を眺めることができた。

今回の北海道社員旅行、私は 3 回目ではあるが、あいかわらずのおいしい料理や広大な自然、そしてススキノでの楽しい一時を共に働いている上司や同僚と共有することができ、なかなか話す機会のない課とのコミュニケーションをはかることができた。

またこの北海道に戻ってこれるよう、社員一丸となって精進していきたいと思わせてくれるような、そんな社員旅行だった。

社員旅行（北海道道央圏）　　松井 繁信

初めての北海道でしたが、まだ残っている広大な自然と先達による開発事業成果の両者を見ることが出来ました。旅行期間中は天候に恵まれ、バス移動途中で見た比較的なだらかな地形と広葉樹の茂る自然や広い農地と牧場、そして大都会である札幌と歴史を感じさせる小樽市などよい思い出となりました。

高知と今回の目的地である函館・札幌・小樽は地理的に遠いのですが、北海道の開拓を目指した坂本龍馬とその子孫を顕彰する「北海道坂本龍馬記念館」が函館に設けられていることや、札幌農学校に二期生として学び小樽港の築港事業を完成に導いた廣井勇に関する事項は、高知と函館・札幌・小樽が因縁浅からぬ土地であることを示しています。

明治時代における小樽港の築港事業は当時の経済成長の基礎となる事業であり、その完成は北海道の開拓と日本の発展に大きな寄与をしました。事業の開始から港として運用に至る困難に満ちた経緯は各種図書等の資料が多数存しますが、その中で廣井勇に繋がる系譜は特段の位置を占めており、小樽港の現地に立ったとき高知県民として感慨深いものがありました。

小樽港南・北防波堤（南部より北方を望む）

小樽港斜路式ケーソン制作ヤード(廣井勇の

弟子で事業後継者の伊藤長右衛門が考案)

廣井勇の偉大さは、実務者としての功績が顕著であるのみならず、土木における優秀な技術者を輩出し、教育者としても顕著な功績をあげたことです。彼のこの業績は、本人の言によれば『もし工学が唯に人生を煩雑にするのみのものならば、何の意味もない。工学によって数日を要するところを数時間の距離に短縮し、一日の労役を一時間にとどめ、人をして静かに人生を思惟せしめ、反省せしめ、神に帰るの余裕を与えないものであるならば、われらの工学はまったく意味を見いだすことは出来ない。』の信念と、彼の告別式における親友の内村鑑三による『君の工学は君自身を益せずして国家と社会と民衆を永久に益したのであります。・・・この質素なる家は、大築港を施されし大土木学者の住家とは思われません。』との献辞によって示される生きかたによるものであり、『文明の基礎づくりに努力すべき』という廣井勇の教えは、土木技術者でも敬虔なクリスチャンでもない私にとっても感銘を受けるものです。

平成27年6月2日

北海道の旅

調査測量部調査二課　山本　直也　2015/06/04

1 日目 2015/05/28(木)

高知～羽田～函館(泊)

　トラピスチヌ修道院や、五稜郭公園などを見学し、夜は湯の川温泉で宿泊しました。夕食の「知床鶏」鍋が大変おいしかったです。その後、函館山に向かい、世界三大夜景とも言われる函館の夜景を見学しました。港が美しいカーブを描いていました。

■トラピスチヌ修道院

■五稜郭公園

■函館の夜景

2 日目 2015/05/29(金)

函館～札幌(泊)

　札幌へ向けてバス移動しながら、途中、大沼国定公園、昭和新山、洞爺湖などへ立ち寄りました。フジが咲き誇る大沼国定公園で地ビールをいただき、昼は洞爺湖ほとりでの石狩鍋懐石で生ビールをいただき、夜は札幌の街で生ビールとワインをいただきました。

■大沼国定公園のフジ

■大沼ビール

■夜の札幌

3 日目 2015/05/30(土)

札幌～小樽～高知

　小樽へ移動し、つかの間の自由時間を楽しみました。その後、新千歳空港から羽田空港を経由して、無事、高知へ帰ってきました。

■小樽港にて

■手宮線跡地

■小樽運河

あとがき

　出発前は、北海道は寒いと聞いていたのですが、昼間は高知と変わらず暑いくらいでした。夜もそれほど冷え込むこともなく快適に過ごすことができました。雪に覆われる、冬の北海道にも一度来てみたいと思いました。

北海道社員研修について

調査測量部　調査二課　　伊藤　哲也

今回の社員研修は何と言っても食べ物がおいしかった。ということが一番の思い出です。一日目の函館の朝市で食べた海鮮丼の始まり、その後の旅館の食事、朝市のイクラや、カニ、札幌で食べた石狩鍋や、24 時を過ぎての札幌ラーメンなどおいしい食べ物ばかりでした。

観光については、一日目の五稜郭ではつつじが綺麗に咲いており、もっと時間があればゆっくり歩いてみたかったです。また、タワーからの眺めも天気が良かったので綺麗な五角形を見ることが出来ました。

次の、トラピスチヌ修道院では、自分たちの生活とはまったく異なる生活ぶりに驚きました。日本にこのような生活をしている人たちがいることを知らなかったので大変勉強になりました。

その日の夜は、函館の「100 万ドルの夜景」も堪能することができました。個人的に長崎の夜景も見たことがあるので、日本三大夜景、残すところ神戸のみとなりました。また、旅館の露天風呂も最高で、少し雲がかっていましたが、下北半島を見ることができました。

二日目の、昭和新山では噴煙を見ることができました。しかし、昭和新山より中国人観光客の多さに驚いてしましました。お土産も大量に購入し、その勢いに圧倒されてしまいました。

その日の晩は、すすきので適当に居酒屋さんに入ったのですが、そこで食べた海鮮もとてもおいしかったです。やっぱり北海道は食べ物がおいしいかったです。

北海道だから寒くないかと思っていましたが、旅行中は天気も良く、とても過ごしやすかったです。もっとゆっくり回りたかった箇所もありましたが大変楽しい研修となりました。ガイドさんが「北海道は一年で 4 回それを 5 回繰り返さないと全部を楽しめない」と言っていたので、是非また遊びに行ってみたいと思いました。

「憧れの北の都 函館･小樽･札幌２泊３日の旅」
社員旅行に参加して

調査測量部 調査２課 西岡　徹

旅行前日　旅行の前日、足の親指あたりからじわじわっと痛みを感じてきた。痛風の痛みである。こんなときにやっかいなものが現れやがってと思いながら、旅先での痛みがひどくならないように、すぐさま病院で薬を確保。

１日目　出発当日は、足の痛みは薬の効果が現れそれほどではないが、その原因である「アルコールをなるべく抑えるように」と心に言い聞かせ、いざ北海道へ出発。

北海道は、初日からとても良い天気で昼間は半袖で十分の気温であった。昼食は函館名物海鮮丼をいただいた。新鮮なイメージを持っていたが、団体客用のためか調理から時間が経っている様に感じた。昼間の市場は観光客もまばらで活気あふれた市場とは違っていた。明朝、もう一度朝市にくるのでその時に期待したい。午後からは、五稜郭・トラピスチヌ修道院を見学。それぞれの歴史観を感じながらの見学であった。

夕食はホテルでの宴会であった。旅先での開放感もあってか楽しく大いに盛り上がった。食後は、函館山からの夜景を観賞、日本３大夜景といわれるだけあり、その輝きには感動した。そのあと若者組とカラオケに行き、ホテルでまたもや酒を飲み、温泉に入り就寝したのが３時くらいであった。すでに足の事はすっかり忘れていた。

２日目　函館朝市へ、昨日とは違い観光客ですごく賑わっていた。ただ自分自身が昨日の寝不足から調子が今ひとつでなかったが、それなりに雰囲気を楽しめた。大沼公園では地ビールを味わい、昭和新山を見学後、昼食は北海道３大鍋の一つ石狩鍋をいただいた。皆の頑張り？で１班のビール数を上回ったが良かったのかどうか。夜は、札幌ドームへプロ野球観戦に出向いた。札幌は地下鉄が整備され比較的短時間で球場へ行くことができた。お目当ての日ハム･大谷選手を観ることはできなかったが、プロのすごさ･ドーム球場の壮大な空間を直に感じられたことは良かった。また、ファンサービスも色々と思考をこらして観客動員を図っている様子が伺えた。

３日目　小樽へ、４月の入社式で古川先生に講演していただいた広井勇博士の築かれた小樽港防波堤を見学、その後、小樽運河や倉庫街を見学し、昔ながらの雰囲気を味わえた。倉庫等は、内部を改修してレストラン等として新たな観光価値を生み出している。昼食は名物のにぎり寿司、やはり地ビールもしっかりいただいた。あちらこちらで、中国・台湾系の観光客の多さには驚いた。

終わりに　３日間の旅行であったが、天気にも恵まれ道中は和気藹々と楽しく過ごせ、気分もリフレッシュできた。最初は足の痛みが気になり少し憂鬱にも感じていたが、気持ちの持ちようでずいぶん違う時間をもつことができ有意義な時間を過ごせたと感じている。

最後に親睦会役員の皆さん、大人数の旅行の段取り等、大変だったと思います。お世話になりました。

以上